

佐久東部山地の植物分布

池田 登志男

T. Ikeda: Plant Distribution in the Eastern Mountain Area in Saku

1. はじめに

佐久東部山地は、関東地域である群馬・埼玉・山梨の三県と境を接した地域で、その北端は軽井沢の鼻曲山から碓氷峠、八風山、佐久市の内山峠、荒船山、兜岩山、そして南佐久の田口峠、十石峠、茂来山、御座山、三国山、三国峠、さらに十文字峠を経て甲武信岳、金峰山に至っている。

この地域の植物分布について会誌20号（前号）で「佐久東部山地植物分布ニュース」として、長野県下でこの地域だけに分布する種、県内で比較的分布地域の少ない種、佐久ではこの地域に限られて分布し珍しい種などについて列記した。

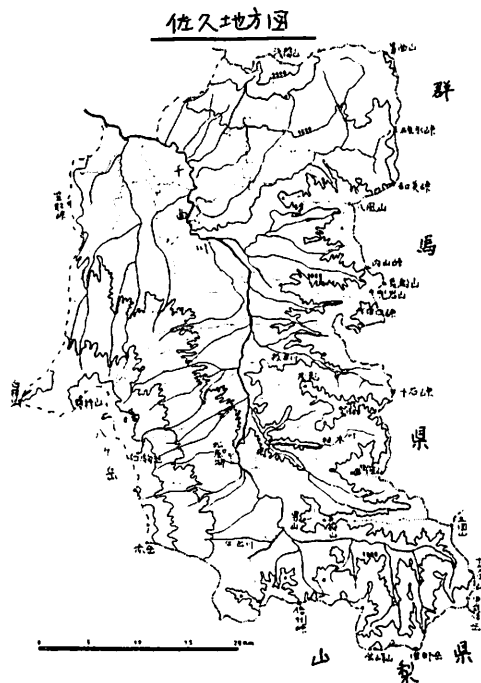
今回は、これらの植物の分布について少し詳しく述べてみたい。

この地域以外には分布しない植物をあげると次のような種がある。

表1. 県下で佐久東部山地だけに分布する植物

植 物 名	隣接県での分布	
	群馬県	山梨県
ミョウギシャジン(ききょう科)	○	×
シナノアキギリ (しそ科)	○	×
コイワザクラ (さくらそう科)	○	○
ハコネコメツツジ(つつじ科)	○	○
カイフウロ (ふうろそう科)	○	○
チチブミネバリ (かばのき科)	* ⊗	×
ジゾウカンバ (かばのき科)	○	×
シライヤナギ (やなぎ科)	○	×
ヤマクラマゴケ (いわひば科)	○	×

(注)※チチブミネバリは群馬県植物誌には記録がない。原色日本植物図鑑（保育社）による。



2. 長野県内で佐久東部山地だけに分布する植物

佐久では東部山地だけに分布し、しかも県内には

- (1) ミョウギシャジン *Adenophora nikoensis* Franch. et Savat. var. *petrophila* (Hara) Hara

川上村梓白岩の石灰岩地に分布しているが、分布範囲はあまり広くない。本種は葉が披針形で先が鎌形に湾曲する特徴があり一部または全部が輪生する。

群馬県では妙義山、叶山そのほか各地に、ややまれに産する。

- (2) シナノアキギリ *Salvia Koyamae* Makino

松原湖畔（小海町）で発見され、1922年「植物研究雑誌」に発表された。発見者は野沢中学（現野沢北高）教師、小山海太郎で種名の *Koyamae* は発見者への献名、その後、佐久各地での分布が明らかになり、現在では10か所あまりに及んでいる。佐久特産とされていたが、群馬県妙義山周辺の分布が明らかになっている。

- (3) コイワザクラ *Primula reinii* Franch. et Savat.

本種の分布は紀伊半島、中部地方南部、関東地方西南部とされ、群馬県では荒船山、山梨県では南アルプス、八ヶ岳、関東山地の各地域に分布する。

本県では一部の文献には、伊那、諏訪、佐久が記録されているが、「上伊那、下伊那、諏訪（釜無）の石灰岩地に産する信州の特産種」（諏訪の自然誌植物編'81）はシナノコザクラであり、諏訪のハケ岳（阿弥陀岳周辺と中岳下部）、上伊那（南アルプス）はクモイコザクラである。

従ってコイワザクラは佐久東部山地の荒船山周辺だけに分布することになる。5月初旬～中旬に開花する。なお、金峰山の記録があるが、筆者は確認していない。

荒船山に近い群馬県の妙義山にはミョウギコザクラがあり、秩父の武甲山の石灰岩上にはチチブイワザクラが知られている。

(4) ハコネコメツツジ *Tsusiophyllum Tanakae* Maxim.

御座山以南に分布し、川上村の各地、特に十文字峠～甲武信岳の尾根筋の岩場には大きな株が多く、個体数も多い。

チョウジコメツツジとハコネコメツツジは外見、生育環境などよく似ているが、本種は花冠の筒部及び裂片までが有毛で葯が縦裂し葉の裏面は脈上と縁辺以外は無毛であるのが特徴で他のコメツツジ類と区別できる。

(5) カイフウロ *Geranium shikokianum* var. *kai-montanum* (Honda) Honda et Hara.

イヨフウロ（シコクフウロ）の変種として山梨県三ツ峠に産することが知られているが群馬県（荒船山など）にも分布する。

佐久では花里弘が1984年、荒船山周辺（物見岩）と川上村梓白岩で採集し、その後筆者も梓白岩で確認しているが個体数は少ない。

(6) チチブミネバリ *Betula chichibuensis* Hara

石灰岩地に生える落葉小高木で本州（岩手、群馬、埼玉、長野）に産する本種は佐久では川上村梓白岩付近（埼玉県境）で見られるが個体数は多くない。

今後十石峠周辺の石灰岩地での有無を調査していきたい。

(7) ジソウカンバ *Betula globispica* Shirai.

関東地方西北部及び中部地方東南部に分布する本種は、山梨、群馬両県には多いようであるが、本県では荒船山、川上村梓白岩などの岩場にまれである。

(8) シライヤナギ *Salix Shiraii* Seemen

本州中部に産する本種は群馬県では尾瀬と赤城山で記録されているが、山梨県では記録されていない。

佐久では浅間山、御座山、甲武信岳などの東部山

地で記録されている。筆者は浅間山（法円坊、標高1900m '80.9.22）と兜岩山（ローソク岩、標高1300m '82.6.9）で採集している。

この地域には本種とコマイワヤナギが混生し、さらにこの2種にチチブヤナギも混じっていて同定に苦しむことが多い。

(9) ヤマクラマゴケ *Selaginella tama-montana* Serizawa

荒船山の絶壁の岩場で1986年、花里弘が採集し、'87年8月、筆者も確認した。現在のところ、荒船山以外では確認していない。

群馬県では多野山地、叶山、黒滝山、荒船山、妙義山、鼻曲山で確認されている。

この地域が境を接している群馬、山梨両県での上記の種の分布を見ると、表1でわかるように群馬では全種が分布している。それに比して山梨では9種中わずか3種が分布するに過ぎない。

佐久東部山地は、その大部分が群馬県と境を接し、三国山～三国峠～十文字峠～甲武信岳の間が埼玉県と接している。そして山梨県と接しているのは、甲武信岳～国師岳～大弛峠～金峰山の間で、この地域は佐久南部山地と見てもよい地域である。

隣接県との、このような接し方の状況が、そのまま数の上に現われているとみられる。

いずれにしても、ここにあげた9種の分布は、関東地域との関係、特に群馬県とのつながりの上に立って考えることができるであろう。

3. 長野県内で分布地域の少ない植物

佐久では東部山地だけに分布し、しかも県下で分布地域の少ない植物は50種近い種をあげることができる。（会誌20号 p. 111～112 参照）

それらの中から、県下で主として南信（伊那、木曽、諏訪）地方に分布する種を中心に上げてみると次のようなものがある。

(1) ヤハズハハコ（きく科） *Anaphalis sinica* Hance

軽井沢から金峰山まで東部山地一帯で、個体数はあまり多くないが、よく見かける。

(2) トダイハハコ（きく科） *Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T. Shimizu

県下では、ヤハズハハコと同じ下伊那、上伊那、諏訪に分布するが、佐久では川上村梓白岩～十文字峠一帯で確認されている。

(3) オオイワインテン（きく科） *Dendranthema*

Pallasianum (Fisch. ex. Bess.) Vorosh.

荒船山の岩場に分布し個体数はあまり多くない。
一名トガクシイワインテンと呼ばれ、県下では戸隠山で知られている。

〔付記〕 オオイワインテン、トガクシイワインテン、トガクシギク、リュウノウイワインテンについて

これらについて、文献によって異なった記載が多く混乱しているように思われる。その主なものは次のようである。

・日本の野生植物 (平凡社 1981)

オオイワインテンとリュウノウギクとの雑種が戸隠山にあってトガクシギク *D. × Konoanum* (Makino) Kitam. という。

・日本植物誌 (大井, 1965)

本種 (筆者(注)イワインテン) とリュウノウギクとの雑種を *Chrysanthemum konoanum* Makino トガクシギク といいい本州 (信濃国: 戸隠山) にはえる。

・信濃植物誌 (横内, 1983)

Chrysanthemum Makinoi × *C. rupestre*
リュウノウイワインテン 佐久 (川上), 南ア
リュウノウギクとイワインテンの間種

Chrysanthemum rupestre Matsumura et
Koidzumi イワインテン オオイワインテン
本州 (中部以北)

Chrysanthemum togakushiense Kitagawa
et Nagami

トガクシイワインテン 戸隠, 佐久 (川上), 北安

・佐久の植物 (佐久教育会 1975)

Chrysanthemum togakushiense Kitagawa
et Nagami トガクシイワインテン

川上天狗山, 戸隠山

以上のようなが、佐久に分布するものは

イワインテン 佐久全域の亜高山帯を中心とする岩場

オオイワインテン 荒船山の岩場

イワインテン × リュウノウギク

川上村天狗山, 男山, 浅間山 (黒斑山) の3か所に分布, 3か所とも周辺には, イワインテンとリュウノウギクが分布している。

(4) ツルカノコソウ (おみなえし科) *Valeriana flaccidissima* Maxim.

佐久市内山峠付近の林の周辺 (標高1200m) で1か所だけ確認されている。県下でも下伊那 (平岡) だけで記録されている分布の少ない種である。

(5) キンレイカ (おみなえし科) *Patrinia triloba* Miq. var. *palmata* (Maxim.) Hara

佐久では御座山以南〜川上村一帯の東部山地に限って分布し、コキンレイカはそれ以外のハケ岳, 浅間山, 荒船山などに分布し, 両種は, はっきり棲み分けている。佐久の西に隣接する諏訪では両種が混生し, 中間型も見られるようである。東に隣接する群馬県では南部の多野山地だけにキンレイカがあり, コキンレイカは全域に「やや普通」に分布する。キンレイカの分布する多野山地は, 佐久東部山地の南の部分に接する地域 (佐久の御座山以南) である。そして山梨県にはキンレイカはなく, コキンレイカがハケ岳に「極稀」に分布する。

(6) キバナウツギ (すいかずら科) *Weigela Maximowiczii* (Moore) Rehd.

荒船山〜田口峠, 川上村毛木場〜十文字峠に分布するが個体数は多くない。県下では下伊那と上伊那に分布する。

山梨県では南アルプスのブナ帯に「稀」に分布するのに対し, 群馬県では, 多野山地, 鼻曲山その他で「やや普通」に見られる。

(7) メツクバネウツギ (すいかずら科) *Abelia Spathulata* Sieb. et. Zucc. var. *tetrasepala* Koidzumi

軽井沢の八風山から川上村一帯まで東部山地全域で, よく見かけられる種であるが, 佐久の他地域では見ていない。この種は山梨, 群馬両県では多いようである。県下では伊那谷, 木曽, 南安曇に分布する。

(8) アブラツツジ (つつじ科) *Enkianthus Subsessilis* (Miq.) Makino

個体数はあまり多くないが, 軽井沢から川上村まで東部山地一帯の所々に点在している。県下では伊那谷だけに分布。群馬県では各地に「普通」であるが, 山梨県では富士山の地域に分布するがあまり多くない。

(9) アセビ (つつじ科) *Peiris japonica* (Thunb.) D. Don

県下で下伊那, 上伊那, 木曽に分布するが佐久では最も高冷地である川上村の標高1600m以上の山地の尾根筋を中心に分布している。

群馬, 山梨両県では各地に「普通」に見られるようである。

(10) クロバナウマノミツバ (せり科) *Sanicula rubriflora* Fr. Schm.

岩手, 長野両県に分布するが, 県下では, 南アル

表2 29種の植物の長野県内及び群馬、山梨両県での分布

植 物 名	隣 接 県 での 分 布		長野県下の分布(佐久東部山地以外)
	群 馬 県	山 梨 県	
(1) ヤハズハハコ	○ややまれ	○ 少	下伊那, 上伊那, 諏訪(釜無, 霧ヶ峰)
(2) トダイハハコ	×	○ 極少	下伊那, 上伊那, 諏訪(釜無)
(3) オオイワインチン	○荒船, 妙義 高岩	×	上水内(戸隠)
(4) ツルカノコソウ	○ まれ	○ 稀	下伊那(平岡)
(5) キンレイカ	○まれ 多野山地	×	下伊那, 上伊那, 諏訪, 東筑摩
(6) キバナウツギ	○ 普通	○ 南ア	下伊那, 上伊那
(7) メツクバネウツギ	○やや普通	○ 多	下伊那, 上伊那, 木曽, 南安曇
(8) アブラツツジ	○ 普通	○ 普通	下伊那, 上伊那
(9) アセビ	○やや普通	○ 普通	下伊那, 上伊那, 木曽
(10) クロバナウマノミツバ	×	×	上伊那, 諏訪(白岩岳), 南安曇, 下高井
(11) チョウセンナニワズ	○ まれ	×	下伊那, 上伊那, 諏訪(釜無)
(12) ナツツバキ	○ 普通	○ 普通	下伊那, 上伊那(南部)木曽(中南部)諏訪(釜無)
(13) アカメガシワ	○ 普通	○ 普通	下伊那, 木曽
(14) ツクシハギ	○ まれ	○ 多	下伊那, 上伊那, 木曽, 更埴
(15) モリイバラ	×	○ 少	下伊那, 上伊那, 諏訪
(16) ヤワタソウ	○まれ(各地)	×	下伊那(南部), 木曽(中南部)
(17) オオコガネコノメソウ	○ややまれ	×	上伊那, 木曽
(18) ヤマブキソウ	○やや普通	○	諏訪(釜無, 富士見), 下水内, 下高井
(19) アカジクヘビノボラズ	×	○稀(各地)	下伊那, 諏訪(釜無)
(20) チチブシロカネソウ	○ まれ	○ 稀	上伊那, 木曽, 諏訪, 東筑摩
(21) サンヨウブシ	×	○ 極稀	下伊那, 木曽, 東筑摩, 南安曇
(22) オオビランジ	○ まれ	○ 少	下伊那, 上伊那, 諏訪(釜無, ハケ岳)
(23) ビランジ	○ まれ	○ 少	上伊那, 木曽, 諏訪(釜無)
(24) ヒメマツカサススキ	○ まれ	⊗	下伊那, 上伊那, 諏訪, 下水内
(25) ヤシャゼンマイ	○ まれ	○ 稀	下伊那, 木曽
(26) ヒメウラジロ	○ややまれ	○ 少	小県(東部町)
(27) ミヤマウラジロ	○ややまれ	○ 少	小県(東部町)
(28) オオバイノモトソウ	○やや普通	○ 普通	下伊那, 木曽, 諏訪, 北安曇
(29) ヒメノキシノブ	○やや普通	○ 普通	下伊那, 木曽, 諏訪(釜無)

(注) ・群馬県の分布は「群馬県植物誌」(1987)による。産量で「普通・やや普通・ややまれ・まれ」の4段階で示している。

・山梨県の分布は「山梨の植物誌」(1981)による。分布の多い順に「多・普・少・稀・極稀」をもって示してある。ヒメマツカサススキは記録されていない。原色日本植物図鑑(保育社)による。

表3 「表2」の植物の郡別分布の種数

地 区	南 信				中 信			北 信				東信
郡 名	下伊那	上伊那	諏訪	木曽	東筑摩	南安曇	北安曇	下水内	下高井	上水内	更埴	小県
種 数	21	16	15	13	3	3	1	2	2	1	1	2

プス(白岩岳), 下高井(志賀), 佐久(梓山)で知られている。梓山の自生地は, 周囲が野菜畑に開発されてきているので保護の必要な場所である。

(11) チョウセンナニワズ(じんちょうげ科)

Daphne pseudo-mezereum A: Gray var. *koreana* (Nakai) Hamaya

軽井沢八風山, 佐久市荒船山周辺に, まれに見るが, 県下では, 伊那谷と諏訪(釜無)に分布する。

山梨県は、ナツボウズはあるが、チョウセンナワズは記録されていない。群馬県では、二子山、叶山に「まれ」で、ナツボウズは叶山、荒船山、片品村に「まれ」に産する。叶山には兩種があることになるが、荒船山は、ナツボウズである。筆者が荒船地区の佐久側で確認したのは、チョウセンナワズであるが、兩種が分布するのかどうか今後の調査に待ちたい。

(12) ナツツバキ (つばき科) *Stewartia pseudo-camellia* Maxim.

東部山地一帯で見られるが、特に荒船山周辺～田口峠、茂来山(佐久町)には多い。県下では伊那谷(上伊那南部まで)、木曽(中南部)、諏訪(釜無)に分布する。山梨、群馬両県では各地に「普通」に分布する。

(13) アカメガシワ (とうだいぐさ科) *Mallotus japonicus* (Thunb.) Mueller. Arg.

臼田町広川原～馬坂地区で、まれに見られる。この地域は田口峠から群馬側に数キロメートルも下った所で地勢的には、群馬の一部のような地域であり、ヤブツバキ、シラカシ、セキコクなども見られる。

(14) ツクシハギ (まめ科) *Lespedeza homoloba* Nakai

佐久市^{あか}關流山一帯と、茂来山など佐久町では特に多く、ヤマハギと混生している所が目立つ。

群馬県では多野山地、烏川源流部などに「まれ」で、山梨県では各地に「多」である。

(15) モリイバラ (ばら科) *Rosa jasminoides* Koidz.

内山峠(佐久市)付近に、まれに見られる。それ以外には、まだ確認されていない。

本種は群馬県にはなく、山梨県では分布は少ないが各地に見られる。県下では、伊那谷と諏訪各地に分布する。

(16) ヤワタソウ (ゆきのした科) *Peltoboykinia tellimoides* (Maxim.) Hara

本種は山梨県にはなく、群馬県では各地に「まれ」に分布する。県下では下伊那と木曽に分布する。

佐久では内山峠付近の水の流れる沢筋に1か所だけ確認されているが、絶滅寸前の状態である。

(17) オオコガネネコノメソウ (ゆきのした科) *Chrysosplenium pilosum* Maxim. var. *fulvum* (Terracc.) Hara

浅間山～軽井沢～荒船山～田口峠の一帯では、よく見かけられる。佐久町以南に分布するかどうか、まだはっきりしないが、あっても少ないと思われる。

群馬県(甘楽郡、北群馬郡)に「ややまれ」に分布し、山梨県には分布しない。

(18) ヤマブキシソウ (けし科) *Chelidonium japonicum* Thunb.

軽井沢、布引、茂来山、北相木村三滝などに分布する。この項にあげる植物の大部分が南信に分布するが本種は、諏訪、下水内、下高井に分布する。群馬県では各地に「やや普通」に見られ、山梨県では石灰岩地に目立つという。

(19) アカジクヘビノボウズ (めぎ科) *Berberis amurensis* Rupr. var. *japonica* Rehd. forma *bretschneideri* Onwi

川上村梓白岩周辺にはかなり多い。県下では下伊那と諏訪(釜無)に分布。山梨県では各地に「まれ」で、母種のヒロハノヘビノボウズと混生するというのが、佐久では混生は見られない。

(20) チチブシロカネソウ (きんぼうげ科) *Enemion raddeanum* Regel.

茂来山など佐久町大日向地区、南北相木村、川上村一帯に点在するが、筆者の現在までの調査では、茂来山が個体数は最も多い。

(21) サンヨウブシ (きんぼうげ科) *Aconitum sanyoense* Nakai

佐久では1973年、佐久町茂来山で筆者が採集して以来、御座山から川上村一帯で確認されている。

特に茂来山は大部分の個体が白花で、青紫色の花の個体は少ない。中には、その中間の色の個体も見られる。

(22) ビランジ *Silene keiskei* Miq.

(23) オオビランジ (なでしこ科) var. *minor* (Takeda) Ohwi et Ohashi

県下では、オオビランジは下伊那、上伊那、諏訪に、ビランジは下伊那、上伊那、木曽、諏訪に分布する。

佐久ではオオビランジは田口峠付近に分布、ビランジは荒船山と飯盛山(南牧村)に分布する。

飯盛山は南向きの乾いた岩場にあり、茎や葉は黒紫色で1株が十数本～数十本の株立ちになり、草丈は30cmには達しない。移植して育てても同様である。荒船山は日陰の岩場にあり、草丈40～50cmくらいになり、外形は両者は全く別種のように見える。

(24) ヒメマツカサススキ (かやつりぐさ科) *Scirpus karuizawensis* Makino

軽井沢で発見された本種は、最近、佐久市三井の吉巾池で花里弘が採集し、佐久では2か所に分布す

ることになる。従来、本種は、山梨、長野(軽井沢)に分布することになっているが、「山梨の植物誌」には記録されていない。群馬県では、北軽井沢で記録されている。

(25) ヤシャゼンマイ (ぜんまい科)

Osmunda lancea Tnunb.

佐久町茂来山の麓、抜井川の溪側、2か所で'83年、中山刈が採集、現在のところ佐久では、ここ以外では発見されていない。県下では下伊那と木曽に分布する。群馬、山梨両県でも「まれ」である。

(26) ミヤマウラジロ (いのもとそう科)

Cheilanthes brandtii Fr. et Sav.

本種は群馬県を中心にして、その隣接の山梨、埼玉、栃木、東京、長野の各都県に分布するが、本県では主として佐久東部山地に分布し、小県郡東部町にも、わずかに分布している。

(27) ヒメウラジロ (いのもとそう科)

Cheilanthes argentea (Gmel.) Kunze

県下では小諸、小県郡東部町の浅間連峰^{かのう}山麓地帯に分布している。筆者の調査では東部町和地区の水田の石垣に多く、同町滋野、小諸でも水田や畑の石垣で見られる。

(28) オオバノイノモトソウ (いのもとそう科)

Pteris cretica L.

臼田町広川原、馬坂地区で見られる。群馬県では「やや普通」に分布する種なので、この地域で見られるのは当然と言えるだろう。

なお、東信地方では、イノモトソウも、ほとんど見られないが、佐久市岩村田と東部町和で確認されている。

(29) ヒメノキシノブ (うらばし科) *Lepisorus onoei* (Fr. et Sav.) Ching.

小諸布引、軽井沢、臼田町広川原、佐久町古谷などに分布する。

ここにあげた29種の植物について隣接の群馬、山梨両県での分布をみると、群馬は29種中24種が分布し、ないのはトダイハハコ、クロバナウマノミツバ、モリイバラ、アカジクヘビノボラス、サンヨウブシのわずか5種に過ぎない。

また山梨も29種中、ないのは、オオイワインテン、キンレイカ、クロバナウマノミツバ、チョウセンナニワズ、ヤワタソウ、オオコガネコノメソウ、ヒメマツカサススキの7種で、22種が分布している。

そして、両県に同じ種が共通して、分布していないのは、クロバナウマノミツバ1種だけである。

これらの種の長野県内での分布地域は、その大部分が、下伊那、上伊那、木曽、諏訪の南信地方になっている。

佐久では東部山地だけに分布し、しかも県下で分布地域の少ない種は、およそ50種に及ぶが、その中で、約30種が南信地方と共通種であることは、注目に値するであろう。

これらの種が、伊那谷と木曽谷に分布するのは、共に南から入ってきたことが容易に想定できる。また諏訪に分布するのは、その大部分が、釜無、入笠地区であることから、それは山梨から釜無川に沿って釜無谷に入ってきたことが、うかがわれる。

そして、それらと共通で佐久東部山地に分布する種は、ここに隣接し、はるかに温暖な気象条件の関東地域から入ったものと考えられる。

ここにあげた種以外にも、イノモトソウ、キンモウワラビ、ハコネギク、ミサキカグマ、ミツバツツジなども、同様に考えられる。特にキンモウワラビ('86年、小諸、山崎惇が採集)は、県下で1か所確認されているだけであるが、佐久市に隣接する群馬県南牧村では、ごく普通に見られる(南牧村誌)という。

また、アセビの分布について考えてみると、県下では下伊那と上伊那(片桐以南)、木曽(三岳以南)に分布する暖帯系の植物であり、下伊那では低地～山地にかけて岩石地に分布するという。

それが、佐久では東部山地の川上村一帯の標高1500m以上の山地に見られ、梓白岩付近の尾根筋では群生する所もあり、標高1800m以上の尾根でも、5月には花が咲き、秋にはたくさんの果実をつけている。

県下で最も寒さのきびしい佐久の中でも特に高冷地である川上村で、平地や山麓一帯では、アセビの自生などは全く見られない。それなのに、標高1800m以上の極寒の尾根筋にアセビが生育していることは、徐々に耐寒性を具えてきたとしても、驚くべきことである。そしてまた、それが、なぜ、佐久の平地まで入って来ないのか不思議である。

4. 分布の由来について

あるひとつの種が、そこになぜ分布しているかその由来を考えるには、その種に適した生育環境、繁殖力やその方法、人とかかわりなど複雑な条件を考慮しなければならず、簡単に結論づけられないことであり、今後の調査、検討に待たなければならないが、ここに一つの考え方として参考になるかど

うか、佐久東部山地の河川のカワノリの分布について紹介しておきたい。

日本におけるカワノリ（藻類）の分布は、太平洋に注ぐ河川の上流に分布するが、例外として日本海に注ぐ信濃川の支流千曲川水系の抜井川（佐久町）と相木川（北相木村、すでに絶滅）に分布する。これについては諸説があるが、白倉盛男は「日本海成立以前に分布したことで、日本海流出河川の上流には生息しない。第4紀以降の海陸分布と気候の寒暖水河遺存種か、など、また日本海流出河川のうち千曲川上流にのみ分布するものとすれば、第4紀地殻変動と水系水流分布、すなわち、古千曲川が古東京湾に注いだ証左とも考えられる。」と述べている。

〔植物ニュース〕115. サンプクリンドウ

Comastoma pulmonarium Toyokuni ssp. *sectum* Toyokuni

本種は南アルプスに産する極めて稀な植物であるとされていた。1922年に小泉秀雄氏が荒川岳で発見されているが、久保田秀夫氏の三伏峠の採品がタイプで、そこからこの名がでている。南アルプスの長野県側では三伏峠と荒川岳、山梨県側の北岳、静岡県側の東岳に分布するとされている（杉本目録）。

ところが1987年8月20日、元島清人氏とハケ岳に登ったところ、ちょうど花をつけた本種が多数あることを確認した。ハケ岳では今のところ、この一ヶ所だけの確認であるが、今までどうして誰も確認できなかったのか不思議である。南アルプス特産であったものがハケ岳にも分布しているということで興味ある問題である。（今井建樹）

116. キバナノマツバニンジン *Linum virginicum* L.

茅野市米沢のゴルフ場造成地に群生している。数年前に確認したが現在も繁殖を続けている。ゴルフ場造成のため芝生を植えたことから侵入したと考えられる。本種は長田武正氏の「帰化植物図鑑」によると北米原産で、久内清孝は「本品はかなり前から千葉県三里塚付近一帯に産し、すでにキバナノマツバニンジン（奥山氏）なる名称が科学博物館の標本に与えられている……」。現在も千葉県下には多く、本州に広く広がっている。*L. medium* (Planch.) Britt. に当る疑いもあるがまだよくわからないという。本県での帰化を聞いていないので報告する。

（今井建樹）

関東地域から佐久に入ってきたと思われるこれらの種の、佐久での分布の現状とその由来を考える時、「日本海成立以前、古千曲川が古東京湾に注いでいた」地形と植物分布との関連の上に立って考えてみることはできないだろうか。

参考文献

群馬県（1987）群馬県植物誌

植松春雄（1981）山梨の植物誌

諏訪教育会（1981）諏訪の自然誌 植物編

横内 斎（1983）信濃植物誌

長野県植物研究会（1984）長野県植物誌チェックリスト

〔新刊紹介〕池上義信（監修）石沢進（編集）「新潟県植物分布図集 第8集」A4判498頁、口絵写真22葉、合本カード式、限定500部、〒別6,000円、植物同好じねんじょ会、1987年12月。

本号には、No.651 タカネヒカゲノカズラからNo.750 アケボノシュスランまでの100種の分布図等が収められている。またビロードシダ、ホソバイヌワラビ、ヤマコウバシ、フユイチゴ、グンバイヒルガオ等の雑録が掲載してある。

特に「佐渡にあって、越後のフォッサ・マグナ地溝帯に分布を欠く植物」は興味深い。新潟県における分布の欠如は姫川以東の苗場山と柏崎を結ぶ南北線に及ぶ範囲で、フォッサ・マグナ地溝帯とほぼ一致するという。ソヨゴ（南方系）、エゾイタヤ（北方系）、ホナガクマヤナギ（日本海要素）、ヒロハヘビノボラズ、イワシモツケ、ツゲ、ホタルサイコ、ユキクラヌカボの8種である。またコウヤコケシノブ、ウチワゴケ、アオホラゴケの着生シダやウラゲトチノキもこれに準じると言う。その原因としてこの地域が、地すべり多発地域であるからと説明している。

新潟県の南に隣接し、同じフォッサ・マグナ地域の一部をなす長野県での分布の解明が待たれる。郡市誌や町村誌等でフロラ作成は、それぞれの種の存在は記載されるが、その逆の欠如の記録はないのが普通である。このような地道なデーターと提言は、植物の分布に興味を湧かせるのみでなく、その原因究明へのアプローチに欠かせぬキー探しもまた楽しみではある。（山猿）